山村塾は都市と農山村の住民が一緒になり環境にやさしい米づくりや
豊かな生態系の森づくりを通じて山村の環境を守るグループです

2021年3月号

こめづくり もりづくり ひとづくり

山村塾通信

「季節を観ること」

今年はサクラの開花がずいぶんと早いようです。福岡県の開花は平年より 11 日も早い 3 月 12 日だったとのこと。今年の冬は寒波や大雪と寒いイメージもありましたが、そういえばフキノトウも早かったし、近所ではタラノメがもうあちこちで出てきていて、季節が随分と早く進んでいるような気がします。季節の変化と言えば、気象庁が行ってきた 57 種類の生物季節観測が令和 3 年から 6 種類に減りました。都市化により動植物の生息環境が大きく変容してきたことや他の気象観測の仕組みが充実してきたことが理由としてあるようです。ウグイスが鳴いた、カエデが紅葉した、と日本人は季節の変化を鳥の鳴き声や草木の生育で感じてきましたので、それらの定点観測が減ってしまうのは寂しいですが、市民活動や SNS を活用して観測を引き継ぐような動きも模索されているようなので、今後に期待したいと思います。

農家さんは季節の変化に敏感です、多くの農家さんが 5 年日記や 3 年日記をつけていて、その年その年の農作物の生育状況や気候、周辺環境の変化を記録されています。昨年と同じ日に種まきをしたのに生育が遅い、今年の夏は雨が続いて日照不足かもしれない、と身の回りの自然や気候の変化に気を配っています。身近な環境を守っていくには日々のこうした定点観測・観察が大事だと思います。

山村塾の活動は、自然と付き合って暮らしている農家さんらを通じて、都市で暮らす人たちが自然の変化を感じる場であり、農家側もまた都市側の目線で自分たちの暮らしや環境を顧みる場と言ってよいと思います。コロナ禍がはじまり 1 年を過ぎました。まだもうしばらくは、人の往来や賑やかな活動の制限が続きますが、可能な範囲で山村塾はじめ皆さんの身近な自然や故郷を訪れて、季節を感じていただければと思います。（小森耕太）

春の棚田（笠原・屋敷地区）

稲作コースより

稲作コースの１年の締めくくりは、四季菜館の稲わらを使って、博多棒しめ縄と呼ばれる大きなしめ飾りを作りました。お正月のお供え物は"棚田の恵み"でできていると言われますが、一年を通して米作りに関わり、そのお米からできたお餅やお酒、しめ飾りをお正月に味わうことができるのは、豊かなことだと思います。現代では生活の中で稲わらを使う機会は少なくなりましたが、この技と文化は伝え続けていきたいものです。

年が明けて最初の行事「左義長」では、棚田にパン！パン！！と竹の爆ぜる音が響きわたるなか、この一年の無病息災を願いました。数年に一度レベルという寒波に見舞われるなか、大雪など様々な壁にぶつかりながらも、試行錯誤し、みなさんの協力をいただきながら無事に開催することができました。ありがとうございました。

今年も引き続き感染対策をとりながらの活動となることと思いますが、知恵を出し合いながら、また棚田でみなさんと汗を流す機会をたくさん作っていきたいと思います。2021 年の米作りも始まります。また田んぼでお会いしましょう！（原 愛子）

日付	行事名	会員	一般	スタッフ	参加者計
12/6	しめ縄づくり	23	0	5	28
1/10	全体行事 左義長	33	0	10	43

みんな無事にしめ縄完成！
（12/6 しめ縄づくり）

立派に燃える竹櫓（1/10 左義長）

農家の声

久し振りの登場です！

世の中暗すぎます。コロナは当然ですが、それに起因する事柄や別の意味で難しい状況です。まず「八女茶発祥の地」としてトップブランドを誇っている茶業が苦境に直面しています。過去において温州ミカンが同じ状況でした。最盛期に 300 万トンの生産量があり、苦しみもがき三十余年がたち、約 1 割の 30 万トンの供給量で経営的にも安定して数年になります。一昨年は秋の長雨による味の不良により売上は減少しましたが、天候が良かった昨年は好調な展開でした。お茶とミカンは単純比較は出来なくても、なんとなく似た部分があるのでは。美味しいミカン、美味しいお茶は少しでいい、そして本物の味が味わえる、そんな本物志向が求められる時代なのかと思います。ミカンもその間現在に至るまで数多くの品種が開発・改良され競っています。茶も旧来の品種に代わり、いろんな品種が普及しつつあります。それと併せて大事なのは、栽培法も工夫が必要ではと考えます。そしてもう一つ、消費者の選択眼も大事ではないか、そのためにも生産者は物語を提供しなければとも思います。

最近、里山の景観保全をテーマにいろんなメンバーと活動しています。思わず人々が足を運びたくなる地域、そこには良い景観とそこで生活する人の温かさもあればと考えます。

三十代で始めた有機・体験農業も、古希が間近に迫ってくると、以前とは角度の異なる視点で見るようになりました。そのことにより周囲の景色がより鮮明に見られるようになりました。

菜の花が咲き誇るこの頃です。コロナが落ち着いたら、またお会いしましょう！

四季菜館
椿原寿之

山林コースより

この冬は緊急事態宣言の発令により、山林コースの活動は予定を変更して、「植林」は中止となりました。楽しみにしていた皆さんには申し訳ありません。

しいたけ菌打ちは少人数での開催でしたが、子どもたちもコツコツと頑張って、6,000 個もの種コマを打ちました。これは宮園家が今シーズンに仕込む量の約 1 割で、宮園さんもびっくりでした。ありがとうございました！

炭焼きでは、窯から炭を出し、切りそろえて袋に詰めるのと平行して、次の炭を焼くために新しい木を窯に運び入れ、火を付けました。活動が終わったあとも、宮園さんは窯の中の温度が上がるまで、10 時間ほど絶えず焚口に焚き物をくべて燃やし続けます。翌朝、「23:15 に火が付いた」との知らせがありました。おつかれさまでした…！今回は炭焼きの楽しみである『火の番キャンプ』は実施できませんでしたが、コロナの状況が落ち着いたら、またみんなで火を囲む夜を楽しみたいですね。

山の仕事に流れる時間はゆっくりで、収穫までに長い時間がかかることが多く大変ですが、過去と未来に想いを馳せながらの作業はロマンを感じます。山林コースの活動は夏までしばらくお休みですが、また山で楽しく汗を流しましょう！（原 愛子）

日付	行事名	会員	一般	スタッフ	参加者計
2/28	しいたけ菌打ち	11	0	5	16
3/14	炭焼き	10	0	4	14

※「植林」は中止しました

炭窯の前で（3/14 炭焼き）

2/28 しいたけ菌打ち

炭の選別（3/14 炭焼き）

３月も後半に入り暖かい日が続いています。笠原の道沿いの菜の花はまぶしいほどに咲き誇り、山々の桜も開花し見ごろを迎えています。この１年はコロナ禍で、今まで普通に行ってきたことが制限されてできないことも多くなりました。ようやく非常事態宣言も解除となりましたが、まだまだ油断せず手洗い・マスクで感染予防は必要なようです。

私たちの仕事は、自然が相手なので勿論リモートではできません。幸か不幸かコロナ禍であろうが仕事を止めることはできません。相変わらず忙しい毎日を送っています。

山林コースの行事も 2 月 28 日に椎茸の菌打ち、3 月 14 日に炭焼きを行いました。人数制限をしての開催となりました。残念ながら参加できなかった方もあり申し訳ない思いもありますが、もうしばらくはしょうがないのでしょうか。そんな中でも参加いただいた方には、本当にありがとうございました。１年以上かけて原木の中で菌を繁殖させ来年の秋くらいから椎茸が収穫できるようになります。今収穫しているのは、２～３年前に菌打ちに参加した皆さんが植菌されたものになります。

私事ですが、4 月から長女が社会人となり、新しい生活がスタートします。我が家も夫婦 2 人と 1 匹になりそうです。そんな中で自分のやりたい事をできるよう色々と計画中です。

コロナのワクチン接種は始まりましたが、この先どのようになってゆくのかわからない状態も続きそうです。1 日も早く元の生活に戻れるよう願うばかりです。

山林コース
宮園 佐津美

■令和２年度自伐林家育成研修

福岡県受託事業である「自伐林家育成研修」では、3 期生 10 名の受講生を対象に、延べ 22 日間の研修を行いました。

山口製材所
TEL：0943-54-2200
八女市上陽町にある、創業 120 年を超える製材所です。
※現在従業員募集中だそうです

詳細 WEB
（八女市商工会）

山口 真紀（山口製材所 八女市上陽町）

ご縁あり製材所へ嫁ぎ、９年前の九州北部豪雨でまさかの水害に遭い、自然災害の恐ろしさを身をもって経験しました。ご先祖様が後世のためにと大切に育ててこられた山もバキバキと轟音をたてて崩れていき、心も痛め、それからは私たちが山の木々を大切にする番だと気持ちを改めました。

我が家は製材所ですので、八女の優良な杉や桧を流通することにより施主様に喜んで頂くとともに、林業の活性に貢献し、結果山を育み守ることを目標にしています。その製材工場で働く中で、チェーンソーなどの道具をきちんと扱えるようになりたい、山に安全に入りたいと思ったことが志望の動機です。

この数か月の研修を振り返ると、予想以上の内容をしっかり教えていただきました。まず第一は安全であること。チェーンソーの目立てはしっかりと。伐木のイメージを描いた行動。そのためにきちんと準備、勉強をする。そして振り返り。なかなか教科書の数字や初めて聞く単語が頭に入らず、ランク試験には落ちてしまいましたが、これをバネにまた勉強します。

講師陣や講習生である仲間との出会いにも本当に感謝しています。様々な職業を持ちながら、みなさんが山に対して真剣に考えをお持ちで意見交換ができ、新しいことの発見の連続で有意義な時間を過ごすことができました。あまりに興味のある話が多く研修が終わるのが寂しいくらいです。

しかし私たち講習生はまだ林業のスタートに立ったばかりですので、この関係を大切にし、今後しっかり実践を踏んでいきたいと思います。講師陣の根拠に基づいた仕事をされるその姿は本当にかっこよく、頭と体を使ったかっこいい林業も子どもたちに伝えていきたいと思い始めた早春の今日、山村塾のみなさま本当にありがとうございました。そして今後ともよろしくお願いいたします！

■ Panasonic NPO サポート プロボノ プログラム

パナソニック株式会社の社員の皆さんによる、仕事のスキルや経験を活かした NPO の支援活動として、社内でボランティアを募り、9 名の方々に「笠原棚田米プロジェクト」の今後を考えるためのマーケティング基礎調査にご協力いただきました。

内藤 茂樹（パナソニック株式会社／プロボノチーム）

最近友人から、コーヒー生豆と焙煎器をいただきました。これまでは缶やせいぜいドリップバッグで飲む程度のコーヒーでしたので、どうしたらいいのかわかりませんでした。が、近ごろは焙煎の仕方やおいしいコーヒーの淹れ方などネット上にありますので、それを見ながら、30 分くらいかけて煎った豆を挽き、3 度に分けてゆっくりお湯を注いで抽出されたコーヒーは今までの 1 杯とは異なり、コーヒーを味わう時間の流れそのものを楽しめるようになった気がします。

山村塾さんとのプロボノ活動を通じて、昨年秋に棚田米が育つ笠原に数日滞在させていただき、ヤギのお世話をして、おいしい料理をいただきながらみなさんとおしゃべりし、グリーンウッドワークを体験し、トラック荷台に乗って田んぼへ向かい収穫作業に立ち会わせていただき、人生で初めてコンバインを運転させていただき、などなど…そんな時間を過ごさせていただいたおかげで、いま食べているお茶碗 1 杯のご飯で、笠原で過ごした想い出もいっしょに楽しめるようになりました。

弊社のプロボノ活動というのは、会社の CSR 活動の一環として NPO 団体の支援を 1 年単位でさせていただく活動で、私は今年度初めて参加いたしました。9 名の仲間と十数回のネット会議や調査活動を実施し、2013 年に立ち上げられた「笠原棚田米プロジェクト」のお米購入者の増やし方についてなど、喧々諤々と議論を続けて参りました。調査にご協力いただきましたみなさまにはこの場をかりてお礼申し上げます。3 月末に行われるワークショップで最後の活動になりますが、これで終わりということではなく、これをきっかけとして、私のように都市部に住む人間が少しでも多く“お茶碗 1 杯のつながり”を楽しめるように、そのためにできることは何かを模索しながら 1 日 1 日を過ごせていけたらと思います。

会員さんの声

じつは山村塾には東京支部があるのです！
東京在住の活動コース会員、中村さんからの声をご紹介します。

ずっと家族として繋がっていたい

山村塾東京支部　**中村 淳**

東京で近所に住む、もうすぐ二歳になる孫が食べているお米は合鴨米です。

21 年前、転勤先で見つけた山村塾の稲作行事に家族で参加しました。初めて体験することばかりでとても楽しく、行事には毎回参加しました。そこで最初に気づいたことは行事の翌朝にとても快調なう〇ちが出ることです。まり子さんが作る黒木の自然の恵みをふんだんに使ったお昼ごはんが体を元気にしてくれることを、親子で体で感じました。

娘は当時小学生でしたが、東京に戻るまでの 2 年半に山村塾でお友達もでき、私も親しい会員さんができました。お友達や親しい会員さんに会えることに加え、椿原寿之・まり子さんを筆頭に面白いおじいちゃんや寡黙なおばあちゃんとお子さんのファミリー、四季菜館の 2 階に住んでいる子供に人気の小森君、同じく宮園ファミリーの親子 3 世代の皆さんと家族になったようなお付き合いがとても嬉しくて、家族で山村塾に通いました。

社命で東京に戻った私たち家族にとって、山村塾は会えないけれど心は繋がったままで、自分たちの故郷のような存在となりました。山村塾から送られてくるお米や野菜は心の繋がりをリマインドしてくれます。そして体が元気になります。

こんな自然の素晴らしさを知ってもらいたいと思い、東京に戻った翌年から黒木の赤米をバケツで育てる活動を開始しました。子供たちがバケツに田植えをして育て、収穫祭には育てた稲を持ち寄り、家族で食べてもらいます。もちろん化学肥料なしで自然の恵みを学習しています。うまく育たないことも人と自然のかかわりを知るきっかけとなります。

一方、自分の住む地域のコミュニティーは関係性が薄れ会話もない現状です。山村塾の皆さんと自然の恵みで繋がっているように、美味しく元気になる黒木の産物で地域の人を笑顔にしたいと思い、黒木の産物を自宅軒先で販売することにしました。私と山村塾ファミリーの繋がりのおすそ分けです。産物も作っている人も、私が 21 年間お付き合いし自信を持ってお勧めできる訳ですから。月一回立ち寄ってくれるお年寄りなどと立ち話をしながら夫婦で販売しています。黒木里山の恵みのファンが増え行くことを願ってこれからも続けていきます。

東京での収穫祭

月に一度の
農産物販売

中村さんの活動の最新情報は
インスタグラムで発信中です
@okuyame_fan

その他の活動報告

日付	活動内容	会員	一般	スタッフ	参加者計
12/6	里山ミニワーク 炭焼き	6	0	3	**9**
1/9	左義長準備	2	0	8	**10**

山村塾 今後の予定

日程	行事名
4/11（日）	全体行事「顔見せ会」
5/9（日）	稲作コース「稲の種まき」
5/29（土）	第 8 回通常総会
6/12（土）・13（日）	稲作コース「稲刈り」※ 2 回開催
6/20（日）	活動コース「鴨進水式」

◆イベントの開催と詳細について

行事および里山ミニワークの開催については、状況に応じて随時判断します。最新情報はホームページ、メールニュースにてご案内します。

※ FAX や郵送でのご連絡を希望される方は、事務局までお知らせください。

最新情報は
ホームページより

山村塾ホームページ

山村塾　検索

編集後記

今年の春は花が一気に咲いて、一気に散ってしまうので、写真を撮るタイミングが難しいですね…。
2021 年度の山村塾もよろしくお願いします！（原）

事務局より

認定 NPO 法人山村塾 会員募集中！

◯会員の種類は、総会での議決権を持つ正会員と議決権を持たない賛助会員の 2 種類です。
◯いっしょに田んぼや山で働く活動コース会員（稲作・山林、稲作、稲作 30kg、山林、古里）も、いつでも募集しています！

ご寄附のお願い

山村塾の活動は、皆様からのご寄附で支えられています。ご協力のほどよろしくお願いいたします。
＜ヤマヤマ基金＞農山村の環境を守る活動全般に役立てられます。

▶ご寄附の方法

■郵便振込口座から
加入者名：特定非営利活動法人山村塾
口座番号：０１７９０－３－１６９３９８

■銀行から
銀行名：ゆうちょ銀行　店名：一七九（店番：１７９）
口座：当座　０１６９３９８
※銀行からお振込みされた方は、お名前とご住所またはメールアドレスをお知らせ下さい。

■農産物を買う
会員の方が、椿原家と宮園家の農産物・林産物を購入されると、その一割がヤマヤマ基金へ入ります。

■古本で寄付ができます！
古本や DVD を「きしゃぽん」にお送りいただくと、買取金額が山村塾への寄付となります。ぜひご協力をお願いします。（古本集荷依頼 TEL：0120-29-7000、山村塾に寄附したい旨をお伝えください。）

◎年会費納入

以下の方々から年会費を納入いただきました。ありがとうございます。（3/11 入金まで。敬称略）

■正会員：原愛子（R2 年度、R3 年度）、西村茂、澤田俊夫、樋口淳一、敷島篤子、福祉ネット宝箱、田仲真理子、武藤久登（R2 年度、R3 年度）、特定非営利活動法人こもれびの家、中村淳、水落啓介、野田佐智子（R2 年度、R3 年度）、澤田基行、内田和実、毛利宗孝、一般団法人社地域企業連合会九州連携機構会長小早川明徳、森永哲夫、八幡憲一郎、小森耕太、小森文子

■賛助会員：江口勝也、安達保、石崎照美、大橋幸太郎、小川誠二郎、川原孝行、久保健、桁山稔博、松本和広、小川義光、重松朝子、下田誠也、内藤茂樹、株式会社乗富鉄工所松藤専務、間辺千里、松尾健一、望田敬子、山下慧（R2 年度、R3 年度）、西濱亜由香、原龍朋、小野孝之、油機エンジニアリング株式会社、内藤祐輔、柴戸慶子、宮野和子、檜室美恵子、杢岡秀樹、榎戸のどか、瀬﨑敏博、松添卓夫、堀博子、今西勇気、平島和也、畠本記子、桁山忠典、江里文子

■活動コース会員：【稲作・山林】中村淳、杢岡秀樹、森永哲夫、八幡憲一郎【稲作】木下麻衣、敷島篤子、原龍朋、小野孝之、特定非営利活動法人こもれびの家、澤田基行、本田範隆、吉原典子、岩田好司、畠本記子、江里文子【稲作 30】栗脇康秀、西村茂、野田佐智子（R2 年度、R3 年度）、榎戸のどか、八田智弘【山林】樋口淳一、福祉ネット宝箱、田仲真理子、特定非営利活動法人こもれびの家、内田和実、毛利宗孝【古里】久保健、下田誠也、平川武子

◎寄附者

以下の方々から頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。（3/11 入金まで。敬称略）

■ヤマヤマ基金：特定非営利活動法人森づくりフォーラム、久保健、西村茂、小川喜光、下田誠也、樋口淳一、小柳友博、西濱亜由香、原豊和、原龍明、小野孝之、平川武子、朝廣和夫、田仲一成、豊国寛隆、中村淳、追立隆男、山本史朗、澤田成行、吉住君子、宮園秀喜、内田和実、川原秀之、宮園福夫、柴戸慶子、宮野和子、檜室美恵子、柏田智、株式会社乗富鉄工所松藤専務、関内潔、瀬﨑敏博、木村麻美、大橋幸太郎、脇野佑一、河野千枝子、古賀芙久美、医療法人村上歯科医院村上和彦、柴戸壮一朗、吉住君子、久保山武、靏久ちづ子、柴尾悠、浅見照美、江口誠子、本村博司、堀恭輔、堀佳南子、松雪清人、成冨千歳、森永拓、森永唯、森永哲夫、平島和也、畠本記子、中村淳、松本和朗・明子、江里朝範、小森由美子、松尾靖子、寺田千穂、園田新一、久保健、小手川絢子、髙橋芳子、勝木タツヨ、赤羽敬治、重野正直、中島幸代、吉元俊憲、八幡憲一郎、社会福祉法人たからばこ

■平成 29 年豪雨支援寄付金：宮野和子

◎企業・団体からの寄附

■ 12/24、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社様から 300,000 円のご寄附（目録）をいただきました。合宿ボランティア開催等に活用させていただきます。
■古本募金きしゃぽん様を通じてご寄附をいただきました。（12/18：212 円、2/19：2,885 円）

＼お問い合わせ大歓迎！／

山村塾　認定 NPO 法人 山村塾
〒 834-1222　福岡県八女市黒木町笠原 9836-1
TEL・FAX 0943-42-4300
Email：info@sansonjuku.com　HP https://sansonjuku.com
FB　https://www.facebook.com/sansonjuku
発行者：小森 耕太
編集者：原 愛子
※山村塾は認定 NPO 法人です。山村塾へのご寄付は寄付金控除の対象となります。